

# 1. 評価結果概要表

作成日 2008年2月17日

**【評価実施概要】**

事業所番号	1270500398
法人名	延寿グループ株式会社
事業所名	アット・ホームケアあすみが丘
所在地	〒267-0066 千葉県千葉市緑区あすみが丘9-55-5 (電話) 043-205-1912

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成20年2月14日	評価確定日	4月18日

【情報提供票より】(20年1月29日事業所記入)

**(1) 組織概要**

開設年月日	平成14年9月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	10 人	常勤	3人, 非常勤 7人, 常勤換算 6.1人

**(2) 建物概要**

建物構造	重量鉄骨ALC造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

**(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)**

家賃(平均月額)	60,000円	その他	食費43,500,水道光熱費27,000,理美容,おむつ代など	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合償却の有無	有(期間:2年)	
食材料費	朝食	450 円	昼食	450 円
	夕食	550 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 1,450 円			

**(4) 利用者の概要(1月29日現在)**

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名		
要介護3	1 名	要介護4	8 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81 歳	最低	66 歳	最高	100 歳

**(5) 協力医療機関**

協力医療機関名	千葉中央メディカルセンター 福元クリニック
---------	-----------------------

特定非営利活動法人コミュニティケア研究所

**【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】**

新興住宅地である、あすみが丘に位置するホーム。母体は病院で、同法人が運営するグループホームは市内に4ヶ所ある。認知症高齢者に対し、職員が1対1で親身な対応を実現するにはグループホームが最適と考えて開設された。静かでありながらも、駅や商店などに程近く、散歩や買い物など、気分転換には事欠かない。バックにクリニックがあることによる医療面での心強さに加え、確かな介護技術、そして管理栄養士による食事の満足度調査実施など、質の高いケアの提供を行っているホームである。

**【重点項目への取り組み状況】**

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	入居者のできること・できないことを把握して情報共有し、身体機能の維持・向上を目指すための働きかけや環境作りを行うようにした。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ホーム会議において話し合った。また前回の評価は真摯に受け止め、改善の方法を検討した。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	過去に4回開催した。地域の自治会からは、入居者が一人で外に出てしまった場合の見守りや、災害時の助け合いの申し出があった。民生委員や地域包括支援センターからは、職員向けの介護研修の情報提供などがあり、さまざまな協力を得ている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の安心やホームへの信頼は、情報共有にあると考えている。そのため、積極的に入居者に関する情報提供を行い、面会時にも声かけを行っている。今後は家族アンケートの実施、意見箱の設置なども検討している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	周辺は新興住宅地で若い人が多く、ホーム行事に招いても忙しくて来られない方が多い。しかしながら、近隣の小学生が歌やマジックの披露に訪れたり、囲碁・将棋、傾聴のボランティアを受入れたりにしている。

## 2. 評価結果 ( 詳細 )

(   部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自立した生活、安心と尊厳を失わないという法人の理念はあるが、ホーム独自のモットーや地域密着型としての理念の文言はまだできていない。		今後、全職員でホーム独自の理念を考えるとのことで、実現が期待される。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、毎日のミーティング、申し送り等で確認し、全職員が理解できるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、敬老会に参加したり、地域防災訓練にも参加している。小中学生の訪問も受け入れ、ホームの行事への参加を地域に呼びかけ、交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を運営者、管理者、全職員が理解している。前回の評価結果については、改善に時間を要するものもあるが、指摘された項目すべてについて、検討を行っている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月に1回程度開催し、さまざまな意見やアドバイスが出され、サービスの質向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員を受け入れ、地域のグループホーム会合に市職員を招き、状況説明や相談をしている。市町村行事にも参加して意見交換をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、日々の様子、健康状態、医師の助言などを家族に書面で郵送しており、面会時にも説明している。また、ホーム通信を定期的に発行して送付している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情相談窓口や外部苦情申し立て機関を明記するとともに、家族の訪問時にも意見を聞くように心掛けている。しかしながら、すべての家族から意見・要望を聞き出せているかどうか定かではない。		家族にはやはり遠慮がつきものであるため、意見聴取の機会を工夫し、不満・要望を言い表せるようにすることが望まれる。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職を防ぐため、待遇面の改善を心掛けるとともに、管理者が悩み等に応えるようにしている。やむを得ない事情で異動、離職がある場合は、入居者に影響を及ぼさないよう気を配っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員に、外部研修の受講を勧めるとともに、定期的に内部研修も行い、必要に応じてアドバイスもしている。しかしながら、全職員の経験に応じて、計画的に研修が実施されているとはいえない。		パート職員も含め、一人ひとりの段階に応じた研修を、確実に受講できる体制づくりが期待される。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター主催のホーム見学会、市の介護相談員による年2回の情報交換会などの場を活用し、同業者との交流が増えており、今後も見学、研修など交流の場を広げる考えである。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>できるだけ体験入居をしてもらい、職員等と交流し、ホームの雰囲気に馴染んで、納得してから入居できるよう支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日常生活の中で職員が教わることも多く、一方的なケアは行なわれていない。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>ケアチェック表に生活、健康医療、精神面を7項目ずつ記録し、意向の把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>担当職員がケアチェック表に記入し、それを基に計画作成担当者が介護計画を作成している。職員の気づきや面会時の家族との話し合いから課題を見出し、随時、また月1回の会議で取り上げ、介護計画に反映させている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月ごとに見直しをしている。入居者に変化があれば、その都度、家族、職員、必要な関係者と話し合い、計画の見直しをしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	空き室があるときは緊急、短期入居を受け入れたり、家族の宿泊も受け入れている。通院介助の実施や、必要に応じて社会資源の紹介もしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人代表が医師であり、24時間対応できる体制であるが、かかりつけ医への診療受診の支援もしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	たとえ重度化しても、経口摂取ができる間は入居者、家族、関係機関と連携を図りながら支援していく方針を共有している。ターミナルに移行する場合は、協力体制を整えば前向きに検討していく。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに配慮した声かけがされている。個人情報のファイルは事務所で保管し、取扱いには注意を徹底している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの生活リズムを把握し、健康や精神の状態を考慮しながら、ホーム側の予定を押し付けず、その人らしい一日が過ごせるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、食卓の準備、片づけなど、個々の状態に応じた参加の支援をしている。食事介助が必要な入居者が多いので、職員は入居者に寄り添いながら和やかな雰囲気ですべてをしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	介護度が重く、車椅子の入居者が多いこともあり、週2回の入浴を基本としているが、希望があればいつでも対応している。介助を必要としない入居者は、自由な時間に入浴することができる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、畑作業、カラオケ、囲碁、外食やボランティア、職員との会話、月1回の行事と様々な場面を工夫しているが、介護度の重い入居者に対する支援が課題である。		介護度の重い人、表情の見えにくい入居者の楽しみや役割を見出すのは容易ではないが、ぜひ取り組みを期待したい。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日散歩に出かけているほか、月1回のドライブでの遠出や、お花見、外食なども楽しんでいる。行事参加が困難な人には心身の状態や希望に添って個別支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	見当識障害が顕著な入居者がいるので、家族の希望もあって玄関は施錠している。改善の取り組みとして、職員、家族に認識を促し、状況を判断しながら少しずつ施錠しない時間を長くしているところである。		家族の理解と職員の意識向上を促し、今後も鍵をかけないケアに向けての取組みが望まれる。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルは目に付く所に置かれている。年2回避難訓練を実施しており、訓練記録には避難の所要時間も記入されている。		自治会、近隣に声かけはしているが、まだ参加はない。今後も呼びかけへの取組みが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量は介護記録に記入し、食事メニューは職員が持ち回りで決めている。定期的に管理栄養士に助言、指導を仰いでいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には入居者の色々な場面での写真、リビングには季節の飾り、入居者が毎日めくる日めくりカレンダーが掛けてある。ゆったり出来るソファもあり、広い窓からは明るい陽が差し込んで遠くは富士山が望める。清潔感があり掃除も行き届いている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には個々の思い出の写真や賞状などを飾ったり、使い慣れた家具、テレビ、仏壇等を置いて、居心地良く過ごせるよう配慮している。		